## 乳・幼児のかかりやすい疾患

学校保健安全法によって出席・登園停止とされる病気以外にも、乳・幼児がかかりやすい疾患があります。
それらの主な症状をご紹介します。

| 病名 | 主な症状 |
|---|---|
| 溶連菌感染症 | 発熱（38 ～ 39℃）、喉の痛み、イチゴ舌などが見られる。 |
| マイコプラズマ肺炎 | しつこい咳と発熱。全身倦怠感が見られる。 |
| 手足口病 | 口の中の粘膜や手のひら、足の裏、足の甲などに水疱性の発しんができ、1 ～ 3 日間発熱することがある。 |
| 伝染性紅斑（りんご病） | 発熱・倦怠感・頭痛・筋肉痛などの症状が見られ、その後、両側頬部や四肢に紅斑が生じる。 |
| ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルスなど） | 激しい嘔吐や水様性の下痢が見られ、時に高熱を伴う。脱水をきたすことがある。<br>ロタウイルスは便の色が白色になることがある。 |
| ヘルパンギーナ | 高熱や咽頭痛が 1 ～ 3 日続く。喉に赤いポツポツ（粘膜しん）ができ、水疱から潰瘍になる。 |
| RS ウイルス感染症 | 発熱、鼻水などの症状ではじまる。乳幼児では咳やゼーゼー（喘鳴）がひどくなりやすい。 |
| 突発性発しん | 生後 6 か月～ 2 歳に発症しやすい。3 日間程度の高熱の後、熱が下がるとともに紅斑が出る。 |